

誰も置き去りにしない、  
生き抜く力にあふれた  
子どもたちを育むために



## 【インフォメーション】

心に届けるおすすめコンテンツ

ホームページで「講演動画」公開中！

■■■■■ ニッケ教育研究所 ビデオギャラリー ■■■■■

特別  
講演

「第2弾 親子のふれ合いを通して深める学び」

講師 森川 正樹 先生 《関西学院初等部 教諭》



笑顔で明るくて、子どもたちが話しかけやすい！大人たちがそんな存在になり、環境をつくることが大切です。  
会話やふれ合いを通して子どもたちと一緒に学び、互いに深めていくことの素晴らしさを実感できるお話を。

■■■■■ スマホから、ご視聴いただけます ■■■■■

身近な教育の話題をとりあげた  
「コラム」も随時更新しています。  
ホームページを是非ご覧ください！

詳しい内容はこちらから  
<https://nikke-edu.org/>



## 一般会員募集

私たちと一緒に、「子どもたちが生き生き伸び伸びすごせる環境づくり」に参加していただけませんか？  
子どもたちは“未来の宝”です。私たちが発信する未来の宝を育む情報を、学校・家庭・地域では是非ご活用ください。入会のお申し込みは、ホームページでご案内しています。

## 編集後記



4月になり、子どもたちにとって新たな1年がスタートしました。コロナ禍は2年が経過し、これまで誰もが経験したことのない環境が続いている。このような環境の中、教育現場や家庭では子どもたちの学びを止めないための創意工夫がされていると同時に、子どもたちも精いっぱいこの環境に立ち向かっています。

現在、コロナ禍だけではなく、持続可能な社会への取組(SDGs)やデジタル社会への急速な移行など私たちを取り巻く環境は大きく変化しています。これから子どもたちが学んでいくことは大人たちも経験したことのないことですので、「教える」から「共に学ぶ」という子どもたちへの接し方が大切だと感じます。子どもたちが自ら課題を見つけ、考え、行動していくために、学校・家庭・地域がその支えとなっていたいと思います。

一般社団法人ニッケ教育研究所  
理事長 楠本 景央



2022春号（年4回発行）No.9  
2022年4月20日発行  
本紙掲載の記事は、複写・複製・転載を禁じます。

《発行》一般社団法人ニッケ教育研究所  
〒541-0048 大阪市中央区瓦町3丁目3-10  
TEL: 06-6205-6665 <https://nikke-edu.org/>

# 未来 叶う Watch

生き抜く力にあふれた子どもたちを育むコミュニティー

## 特集

私がつくる子どもの笑顔 第5回

子どもの“楽しさ”“おもしろさ”  
“秘めた力のスバラシさ”

連載コラム 第1回

学校グランドデザイン

—家庭と地域をつなぐ学校つくり—

インフォメーション

心に届けるおすすめコンテンツ



第1回

# 学校グランドデザイン

## — 家庭と地域をつなぐ学校づくり —

《ニッケ教育研究所顧問》 勝本 孝夫

元・大阪市立櫻木小学校校長（鶴見区）  
元・大阪市立姫里小学校校長（西淀川区）

春の花々が咲き薫る季節となり、新年度がスタートしました。一方、世の中では考えていなかった出来事が次々に起こり、私たちはさまざまな試練や困難に直面しています。変化のスピードが速く予測が難しい時代ですが、だからこそ、いかなる状況にも微動だにしない学校づくりに取り組む必要性が、いや増しているのではないかでしょうか。

今回から4回にわたり、学校グランドデザインについて掘り下げていきます。学校が、家庭と地域をつなぐキーステーションになっていくための一助となればと思います。

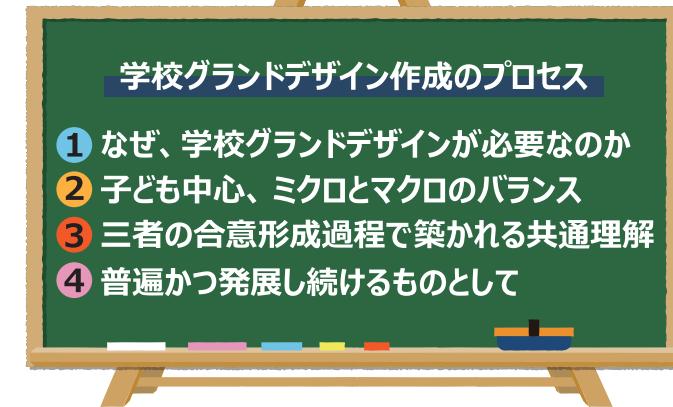
### 1 なぜ、学校グランドデザインが必要なのか

校長として最初に赴任した小学校では、地域の連合町会長（連長）から事あるごとに、「校長先生、ええ学校つくってや、頼んまっせ！」と言われました。私はその都度、「分かりました！いい学校をつくります！」と返答していました。しかし返答はしたものの、「いい学校」とはいったいどんな学校なのかとの気持ちになったのです。確かに、頭の中には何となく「いい学校」が浮かんでくるのですが、何となくではなく、はっきりとした映像を思い浮かべられるような具体的なイメージとして、皆に示す必要があるのでないかとの思いが込みあがってきたのです。

各学校には、「教育課程」や「運営に関する計画・自己評価」など、「その学校の教育の方向性を示すもの」があります。しかし、ほとんどが教育委員会や教職員といった、

### 基本理念の設定

当時、学校グランドデザインの作成過程において、管理職である校長・副校長・教頭の3人（ほとんどの学校では校長・教頭の2人）で、幾度も幾度も検討を重ねて練り上げていきました。その際、文部科学省と大阪市の教育方針を基にすることを大前提に、まずは、学校グランドデザイン全体を包括する基本理念から検討を始めました。折も折、2015年9月に国連総会で採択されたSDGs（持続可能な開発目標）の「誰も置き去りにしない」という基本理念に心が揺さぶられました。この理念は、学校づくりにもぴったりとあてはまる感じ、本校の基本理念として掲げることを決めました。なお、ここで言う



教育関係者に向けた表現で書かれています。しかも、かなりのページ数になっているので、保護者や地域の方が内容を把握するにも容易ではありません。

学校力構築のために学校・保護者・地域の連携が叫ばれている今、**三者が一目瞭然にイメージでき、容易にシェア（共有）できる**、「学校教育の方向性を示すもの」を創り出していく必要性を感じたのです。それが【学校グランドデザイン】であり、「教育活動の全体構想」を表したものなのです。実は学校グランドデザインを共有することによって、保護者や地域の方だけでなく、教職員にも学校の目指す方向性がはっきりと認識されるようになり、教職員集団にまとまりが生まれてくるのです。

※ 基本理念については、「未来 Watch 2020 夏号」にも掲載しています

「誰も置き去りにしない」の「誰」とは、もちろん第一は子どもたちですが、保護者・地域の方であり、教職員にもあてはまると確認し合ったのです。

**基本理念は、教職員・保護者・地域の方をひとつにまとめる“中心軸”**です。それゆえ設定にあたっては、学校の方向性をシンプルに伝えることができる「効果的な一言」で表現することを意識しました。また、そうすることで、「一目瞭然にイメージできる」という学校グランドデザインの特長を最大限に活かせると考えていたからです。このようにして設定された基本理念は、管理職同士の検討会においても、合意形成を図る上での“中心軸”になっていました。

### 作成のための3視点

管理職同士の検討会を、三者での学校グランドデザイン共有に至るまでの重要なスタートと位置づけていました。つまり、この検討会こそが、今後の学校運営の内実を左右するものであると言えます。学校グランドデザインを作成するにあたっては、管理職同士が心をひとつにして、合意形成を図りながらじっくりと練り上げて欲しいと願います。

検討会では、学校グランドデザイン作成のための3視点を掲げ、その下で討議を重ねていくこととしました。そうすることで各項目の関連性を、理解しやすく論理的に整理された内容に練り上げることができたのです。

#### 【学校グランドデザイン作成のための3視点】

##### 簡潔明瞭化

極力、専門用語を使わずに、簡潔明瞭・シンプルな言葉で表記する

##### 視覚化

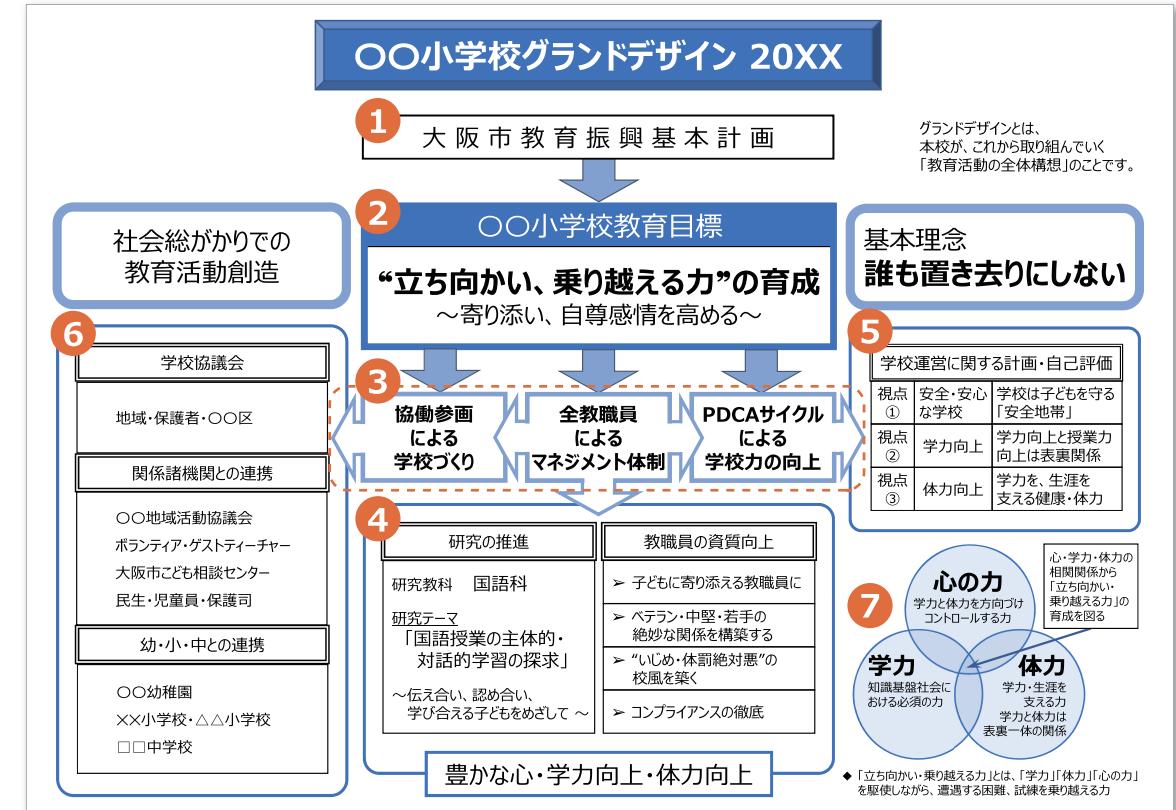
図や表などを取り入れて、一目瞭然に視覚的にイメージできるようにする

##### 構造化

学校とつながりのある諸団体との関連性・相関性を、構造的に示す

### 学校グランドデザインの作成例（大阪市）

※ 過去の作成例です／表中の①～⑦の数字は、実際のものではありません



# 私がつくる 子どもの笑顔

第5回

## 子どもの“楽しさ”“おもしろさ” “秘めた力のスバラシさ”

《大阪市立豊崎本庄小学校》 西浦 博久 校長



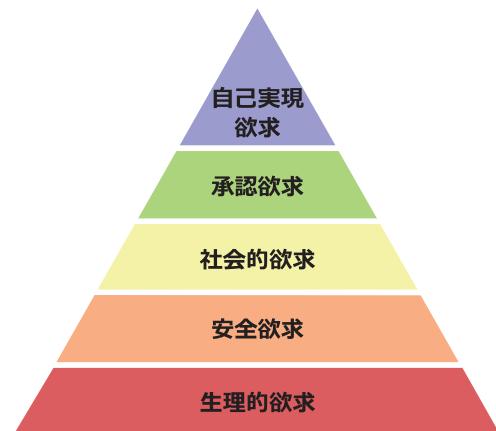
私が教員になりたての頃、同僚に誘われて参加した研究会で大阪幼少教育研究所所長の石田 光先生と出会い、「子どもの楽しさおもしろさ秘めた力のスバラシさ」を見失うなと教えていただきました。それからさまざまな教育実践に巡り合い、子ども観、教育観、学校観を作り上げました。そして今、自分の理想とする学校づくりをしたいと考えています。

### 子どものための学校～教師自身が最高の教育環境に～

子どもたちには学校生活を通して自分なりに物事を判断し、その時々の課題を解決しながら成長し続け、自分の人生を切り拓いていく力を身につけてもらいたいと願っています。のために、一人一人の子どもに目を向けた教育を展開していきたいと考えています。

### 子どものやる気スイッチを入れる

私はこれまでたくさんの子どもと接する中で、家庭や学校を安全基地だと思える子どもには、もっと学びたいという意欲が湧いてくるのを見てきました。そこで新1年生の学校説明会では、「子どものやる気スイッチを入れてください」「子どもの可能性を家庭と学校で伸ばしていきましょう」ということをお伝えするために、「マズローの欲求5段階説」（注1）を使って話をしています。



マズローの欲求5段階説

(注1) アメリカの心理学者マズロー(1908-1970)によって提唱されたモチベーション理論。

子どもたちの元気な声や輝く笑顔があふれた学校をめざして、現場ではさまざまな創意工夫が行われています。「私がつくる子どもの笑顔」では、現職の校長先生に学校づくりの考え方や具体例を紹介していただき、子どもたちを育む学校環境についての意識を深めていきます。

第5回は、大阪市立豊崎本庄小学校の西浦博久校長です。

### 校長室で行う九九名人テスト

2年生の算数において、九九はきちんと身につけてもらいたい単元です。そこで、校長室で答えながら九九を導き出す最終テストを行っています。子どもたちは教室で毎日のように九九のテストを重ねていますが、「ラスボスの校長先生に挑戦する!」と意欲を持って臨んでいます。すべての九九テストをクリアしたら、いよいよ最終テストです。校長室という非日常的な場所で受けるテストは、子どもたちにとって特別なものになっているようです。緊張の中、無事合格して【九九名人認定証】を手にした子どもたちは、心から喜んで教室に帰っていきます。



### 児童朝会からのインプット／アウトプット

児童朝会での校長の話を、子どもたちは、教室に戻り80字程度に要約した文章を書きます。季節の話や社会での出来事、時には子どもたちが頑張っている話など、校長から聞いた話を頭の中にインプットします。インプットした話を、校長が話した順番に書いたり、要約して書いたり、聞いた話から自分の考えを書いたりしてアウトプットしていきます。このようなことを通して、子どもの聞く力と書く力を伸ばしたいと考えています。



### 子どもの主体的な学び

校長として最も力を入れているのが学習指導です。環境や経験の違いにより、事象に対して表れる反応は子どもによってまさに個性的であり、そのため個別最適化された学びが必要になってきます。

学習における個性は、「学力」(到達度)の違い、問題を解決する「学習時間」の違い、「学習スタイル」(学習適正)の違い、興味・関心の違い、生活経験の違いなどと捉えています。そこに必要となる『指導の個別化』では、すべての子どもに共通の基礎学力の習得を等しく着実に保障するために、一人一人に最適化された指導方法、学習時間、教材等の豊かで柔軟な提供を進めていくことをねらっています。

学習における個性の伸長には、自ら学習課題を見つけ、自らの方法で追究していくことも大切です。その例として、「総合的な学習の時間」などが挙げられます。また、長期休業中の課題として出される自由研究学習も、子どもの興味や関心に応じて、

### ポストコロナを見据えた学び

新型コロナウイルス感染症の拡大で感じたことは、学校が臨時休校になっても自分で決めて、自分で学習を進めることができる子どもになってほしいということです。これからも、学校では学習の仕方を学び、家庭では自分の力で学び続けることができる子どもを育てていきたいです。

新型コロナウイルス感染症の影響が長引き、思うような教育

### おわりに

ポストコロナでは、もっともっと子どもに寄り添った教育を進めていきます。マスクのない満面の笑みで、子どもをハイタッチで校門

自分で計画して進める学習の個別化と考えられるものです。

子どもが家庭学習において、自分で課題を見つけ、自分で問題を探究していく「自主学習」では、自分に合わせた教材や学習時間を使います。自分で決めて、自分の好きな方法で調べ、まとめていきます。また、「一人一台端末」を文房具のように使いこなし、調べたいことを検索し、情報収集手段として動画も活用します。学習したことを家庭でゆっくり振り返り、自己内対話で学びを深めています。

—— バッタの足はむねから出てるんや。他の昆虫はどうかなあ。昆虫といわれるものは、全てむねから足が出てるのがわかった。

—— あれ、足の形は昆虫によって違う。どうしてだろう。自分自身の言葉で自分の知識や経験、疑問、気づき等を関連づけ、自己内対話をしながら自分の考えを振り返ることで、子どもは思考を再構築していきます。

活動は実施できない状況ですが、一方でオンライン授業の整備が進み、登校しづらかったり、集団活動が苦手だったりする子どもたちへの学びの保障という面で一步前進したとも言えます。学校と家庭を意識しながら、対面授業とオンライン授業それぞれの特性を活かすにはどうすれば良いのかを検討する中で、ハイブリッド型の学校のあり方を考えていきたいです。

から送り出す日が、一日も早く来ることを願ってやみません。